

社会科学学習指導案

令和6年9月20日(金)

第4校時 13時10分～14時00分

2年B組 40名

指導者 中島 将宏

1 単元名 第三章 日本の諸地域 「地方創生に必要なものは何か」

2 単元設定の理由

(1) 教材について

- ・「日本の諸地域」は、内容のCの(2)である「日本の地域的特色と地域区分」で扱った事象を主要な考察の仕方として用い、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、地理的な事象をその他の事象と関連付けて、地域的特色や地域の課題とともに事象間の関連を理解し、多面的・多角的に考察できるようにする単元である。中国・四国地方は、中国山地や四国山地を境に山陰、瀬戸内、南四国と大きく分けて3つの地域に区分することができ、自然環境や産業の違いがある中でそれぞれ発展してきた経緯がある。また、交通網の整備によって地域間の移動も多く行われるようになってきた。しかし、近年は山陰や南四国の山間部の人口減少が著しく、今後の地域の存続が問われている。
- ・本単元においては、「②人口や都市・村落を中心とした考察の仕方」を中心として、中国・四国地方が抱える人口や村落の問題をそこに暮らす人々の生活や文化、産業と関連付け、地域の大きな課題であることを資料やデータと関連付けたり、各市町村が行っている取組を参考にしたりすることを通して、中国・四国地方にある様々な問題を多面的・多角的に考え、表現することができる。
- ・中国・四国地方の課題は日本全体の課題でもあり、そこで得た知識をもとに、日本が直面する現状と課題を主体的に考え、課題解決に向け粘り強く考えぬく力を養うことができる教材である。

(2) 学習者について

- ・本学級の学習者は、社会科のアンケート調査において、「知らない地域のことを知るのが楽しい」「想像していたイメージと違うことがわかることが楽しい」などの回答があり、新しい知識を知ることに関心を持つ学習者が多いと言える。単元テストや定期テストの結果を分析からも基本的な用語の習得や資料の読み取りができている学習者が多い。
- ・一方で、「複数の資料を関連付けて読み取ることが難しい」や「根拠を示してまとめることが難しい」と回答をしている学習者も見られる。複数のデータや資料を読み取る事を苦手と感じていることや自分の考えをまとめることに困りを感じている学習者が一定数存在する。
- ・「グループ学習と一斉学習はどちらが自分の学習に役立つか」という質問に対して、94%(36/38名)の生徒がグループ学習と回答している。理由としては、「話しながら考える方が楽しい」「わからない所を社会が得意な人に聞ける」「自分と違う考えを聞けるのは参考になる」などの回答があった。互いに意見を言い合いながら課題に対して取り組む様子や聞く態度は意欲的で互いに高め合う姿が見られる。

(3) 指導について

- ・一つの事象を理解させるだけでなく、事象間の関連からみえる新たな視点を地理的な見方・考え方を意識させながら育てていく。
- ・課題分析については、RESAS や地域創生ポータルサイトで読み取ったことをワークシートや振り返りシートに記録し、スライドを使って自分の思考を整理させる支援をする。その情報をもとに小グループでの活動で互いの意見を交流させ、多種多様な考えを認め合う大切さを醸成する。
- ・自らの学びを、振り返りシートで積み上げ、考えの広がりや関連に気づき、学ぶことの必要性が高まることを促す。また、グループ学習を通して資料やデータを分析し、協働して課題解決に導く力を向上させていく。

単元プランシート(社会科2年)

実施時期9月

単元名		日本の諸地域 (2) 中国・四国地方
単元の目標		中国・四国地方の地域的特色を理解し,そこに暮らす人々の生活や文化,産業と関連付けて,中国・四国地方の様々な問題を考え,表現することができる。
評価 規 準	知・技	①中国・四国地方の地域的特色を理解している。 ②問題解決に必要な資料を効果的に調べ,まとめる技能を身に付けている。
	思・判・表	①中国・四国地方において,人口,自然環境,産業,人々の生活の様子やそこで生ずる課題と結びつけて,多面的・多角的に考察,表現している。
	主体	①中国・四国地方のよりよい社会の実現を視野に,そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1	○中国・四国地方の地形や気候などの自然環境の特徴を理解する。 ○中国・四国地方の各地の人口推移を読み取り,過疎化や少子高齢化が進む地域であることを理解する。 ○国が進めるIT技術を活用した地方創生の考え方を理解する。 ・単元を貫く課題の設定「地方創生には何が必要なのだろうか」	① 観察 ワークシート		
2	○中国・四国地方がどのように発展してきたか,産業と交通の視点から捉える。 ・工業について,瀬戸内海沿岸の工業地域の発展を自然環境の特徴と関連付けて理解する。 ・農業について,交通網の発達によって各地に出荷される作物への影響を理解する。	② 観察 ワークシート	① 観察 ワークシート	
3	○全国各地で行われている地域創生の取組を調べる。 ・地域創生ポータルサイトに掲載されている事例をもとに自然環境,産業,交通・通信の面から中国・四国地方でも活用できる事例を見つける。		① スライド	
4	○単元を貫く課題について,今後の中国・四国地方について考える。 ・前時にみつけた事例が,どうして中国・四国地方でも活用することができるのか,地域的特色を踏まえて考察する。		① スライド	① ワークシート
5	○単元のまとめを行う。 ・前時に作成したスライドを完成させる。 ・振り返りシートに単元のまとめを記入する		① スライド 振り返りシート	

○...記録に残す評価(総括的評価) ●...記録に残さない評価(形成的評価)

評価基準(思考・判断・表現について)	
B	A
中国・四国地方が抱える様々な課題を多面的・多角的に考察し,表現している。	中国・四国地方が抱える様々な課題を多面的・多角的に考察し,自分なりの提言を踏まえて表現している。

様式3 本時の指導

- (1) 本時の位置づけ(4/5)
 (2) 題材名 日本の諸地域 中国・四国地方 地方創生に必要なものは何か
 (3) 本時のねらい

中国・四国地方の今後について、地方創生の取組を分析し、中国・四国地方に適合しうるものを多面的・多角的に考察する活動を通して、よりよい地域の在り方をスライドにまとめることができる。

(4) 展開

◎は形成的評価

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
10	1. 前時までの内容を振り返る。 2. 本時のめあての確認	○地方創生ポータルサイトに掲載されている事例を基に、中国・四国地方でも取り組むことができる事例を探すことを伝える。 ・本時の流れを伝える。 めあて：中国・四国地方の地方創生のために活用できる事例を考えよう	
15	3. 前時にまとめた事例の中から1つ選び、中国・四国地方でも取り組める事例をスライドに示す。	○振り返りシートにまとめた中国・四国地方の地域的特色(自然環境、産業、交通・通信)や前時に作成したスライドを参考にして、中国・四国地方でも取り組める事例を一つ選ばせる。 ・選んだ事例は中国・四国地方の山陰、瀬戸内、南四国の中で、どの地域で取り組む方が効果的かも示させる。 ○chromebook のスライドに自身の考えをまとめさせる。 ・多面的・多角的に考察をするように促す。 ・活動が滞っている学習者には机間指導の中で助言を与え、支援をしていく。	◎【スライド】
15	4. 各班で自分の考えを発表する。	○各班(4人班)で自分の考えを発表させる。 ・持ち時間は1人2分を基本とする。 ・発表はどのような視点で事例を選んだのかを聞く人に伝わるように説明させる。 ・聞く側は発表者がどのような視点で事例を選んだのかワークシートにメモを取りながら聞かせる。 ・代表者数名に全体発表をさせ、多面的・多角的に考察しているところを評価し、自分の考えも多面的・多角的に考察できているか振り返らせる。	◎【発表】 ○【ワークシート】 (主体)
10	5. 振り返りを行う。	○他者の発表を聞くことで得た新しい視点や新たに浮かんだアイデアをもう一度考えさせ、スライドの修正をさせる。	○【スライド】 (思考・判断・表現)

(5) 本時の評価基準

評価基準(思考・判断・表現について)【本時】	
B	A
中国・四国地方で取り組むことができる事例を、地域的特色を踏まえて複数の面や複数の角度から考察し、スライドにまとめられている。	中国・四国地方で取り組むことができる事例を、地域的特色を踏まえて複数の面や複数の角度から考察し、自分の提言を含めてスライドにまとめられている。